

恒例、事業所訪問第七弾は、千葉県旭市の北総通運株式会社を訪問することとなりました。

残暑というより、盛夏という言葉が似つかわしい猛暑が続いた日々がうそのような、秋を感じさせるさわやかな風のように吹き始めた九月八日。私たち事務局は、車を旭市に向けて走らせました。

東関東自動車道を下ると、稲穂が重そうに頭を垂れ、もうすでに稲刈りが始まっている田園風景をみながら、旭の市街地に入りました。そして、JR旭駅に隣接する北総通運株式会社に到着しました。

私たちがあいさつする前に、組合の理事をしておられる浪川部長が私たちに気付かれ、車まで出迎えてくださいました。

「こんにちは健保組合です」と社屋にお邪魔しました。

浪川部長に二階の応接室に案内されました。「今日は、藤代社長から健康保険組合に対する意見等のお話をうかがいたく、貴重な時間を割いていただきに参りました」とごあいさつをしました。

そのあと、社長室に案内され、健康保険組合が設立されて昨年十一月

に満五周年を迎え、順調に運営されていることを報告しました。

藤代社長から組合設立の経緯について様々なお話があり、設立にあたって多岐にわたる準備にあたった方々の、「生みの苦勞」がうかがえられた（皆さんが苦勞して生んでくださった健康保険組合は健康優良児として成長しています！）。

北総通運は、昭和二十八年に設立され試行錯誤をくりかえしました。

こんにちは 健保組合です！

——事業所訪問——

「北総通運(株)」の巻

そして地元から砂金が採れて、このことが、社の建て直しに光明をみせてくれたということでした。

当時は関東第一番目の運送量で一五、〇〇〇〜二〇、〇〇〇トンの扱ひ量があったそうです。その後、旭市は香取航空基地跡に各企業を誘致して、昭和三十六〜三十七年に、現在の工業団地を形成したそうです。

藤代社長は、企業誘致に役買うなど、自社ばかりではなく地域の活性化に寄与しておられるとのこと。街が発展するためには、氏のような方のご尽力が必要だということは、いうまでもありません。

しばし滞在した応接室に、内閣総理大臣をはじめとした、各方面からの表彰状が多数飾られていたことも、会話が進むにつれて、なるほどと納得させられた私たちでした。

貢献という点では、トラック協会におけるものも多大で、この地区の支部長を数十年勤め、リーダーシップをとっておられます。

その活動の一環である、健康保険組合の適用拡大についても、小規模事業所へのいろいろな面でのアプローチの難しさ等を語られました。このことは、社会保険に精通しておら

▼藤代社長(左)と浪川部長



れる浪川部長と共に呼びかけてくださっているそうです。

また、支部総会などの機会には、事務局が直接説明に来てほしいと要望されました（このことは、ほかの支部からの要望も聞かれます。真剣に考えなくてはなりません）。

ところで、藤代社長はみるからにご健康そうです。健康保険組合の本分である健康管理についてお聞きすると、健康の秘訣はゴルフとのこと。腕前は今でも七〇台を出すほどですが、私たちはただただ、啞然としました。

その趣味が功を奏したのかは定かではありませんが、同社の系列でゴ

とのこと、先見の明なしでは成し得なかつた事業でしょう。

数年前には、トラックの車庫を市街地から郊外に移転するなど、建設投資にも傾注されている同社ですが、社員の健康管理・事故防止も声を大にして呼びかけ、「人」を大切に

ていくこの企業は、約三万九千人の人口を擁する旭市と共に、ますます発展していかれることでしょう。

こうして貴重な時間を割いて取材にご協力いただいた藤代社長をはじめとする、役職員の皆さんにお礼を述べて北総通運をあとにしました。

ありがとうございました。

旭市の東は太平洋に面しています。夏の間、海水浴客で賑った主要道路も、今は夢のあとという感じで、静けさを取り戻したようです。これくらいよいよスポーツの秋・味覚の秋の到来です。